

響を及ぼし害あるも益少きを思ひて、幾度か其の要なしと回答したり、然るに時偶々官業労働者の大會を開きて待遇改善要求を決議し神戸に紛議頗りなるを利用し好機措くべからずと爲して肉薄するあり、内務當局は紛議の擴大を恐れて多くの労働争議の鎮靜は其の主動的地位にある神戸の労働争議に於て結束最も固き労働者を一蹴し去る事に依りて直ちに招來し得るものなりと爲せるが如し。偶々海軍省よりは伊藤機關中將神戸に赴き親しく争議の状況を視察するあり、同中將は右様の事情より神戸の労働者勝利の結果は同一に軍器製造に従事する全國數萬の官業労働者をして峰起せしむるの動因となるものなれば、労働者側をして勝和の凱歌を擧げしむる事なからしむべく三菱、川崎兩會社に對して聲援したりと推すべき理由ありしが如し。茲に於て會社側は愈々態度を強硬にし労働者側の要求に對しては一切耳を傾けず何等の讓歩をも爲さむとせざるに至り遂に紛議は益々紛糾を重ねるに至れり。此の結果圓滿解決の希望先づ失はれ労働者側の結束も甚だ鞏固なるものあれば俄に降伏する事もなかるべく會社側亦嚴重に守る所ある以上何時暴動起らずとも保せられずと憂慮しつゝありし際川崎造船所職工等の工場管理宣言發表せらるゝあり、茲に有吉知事も内務當局に對しても知事の職責上默過し難くなりしと、萬一暴動等起らば姫路と神戸との間四時間半の行程あれば急變に應じ難き事明白なるを以て豫め備ふるに如かずと思爲せしとよりして、遂に姫路師團長に對し派兵を乞ひしものにして知事の本意は清野前任知事が大正七年米騒動に際し終始出兵を拒絶し通せると同様に飽迄傍觀的立場にありて取締らむとせるにありしものなるべしと。

七、永留重役排斥問題

川崎造船所に於ける争議の紛糾し來るや株主間に於ても永留重役の處置を妥當ならずとするもの生じたるは自然の數なるべし。反永留派の出色なるものを、海産物商名和金次郎氏となす。名和氏は永留常務に恩怨なしと雖、松方社長の信用ある人なり。名和氏は思へらく、永留常務は、松方一家の恩顧を蒙ること深くして尙松方社長を理解せずと、即ち松方氏が「大正八年川崎造船所大意業に際し、一重役が、代表委員を誡首の進言するや、代表委員を誡首するは全職工を誡首するの謂ならずや、川崎造船所の誇は其傳統にあらず、超勞級艦の建造に非ず、一萬五千の労働者に生活の不安を與へざることにあり、労働者を無視して川崎造船所に何の光榮あるべき」と名和氏は松方社長の此言を取て以て、永留常務の對労働者策を批難し夙夜株主及重役の間を歴訪し、永留氏彈劾の氣勢を煽り、永留氏に對して辭職の勸告をなすところあり、又市民大會に鑑みて「永留常務は労働者を裏切り、松方社長を裏切るものなり」との大演說會をなし其氣勢漸く熾なるに於て、臨時株主總會の開催を計劃したり。一時は其計劃必ずしも實現の難からざるを思はしむるに充分なるものあり、争議團の外縁的勢力たる今井嘉幸、高山義三（兩氏とも在神辯護士）兩氏等は之に期待するところありき。